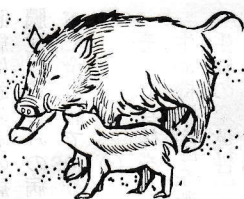


健康と光線

謹賀新年

昭和58年元旦



サナモア光線協会

診断学と治療学は別

近年医学は著しい進歩を遂げた」と言う表現は、実は何時の時代にも使われる陳腐な常套語に過ぎません。でも、これが人々に過大な期待感を与え、予防医学を疎かにする一因になるとしたら、看過できない問題です。

医学は確かに日進月歩で進歩していますが、病人の「治して貰う」と言う願いに答えるのに、見直す必要があらわれます。例えば最近20年間の医学の進歩を振り返っても、主として診断学に関するものです。これに

副作用が恐い薬物療法

対し、病人に大切なことは、調べて貰う「こと」でなく、「治して貰う」ことです。でも現代医学の現状は、治る病気「か」治らない病気「か」の篩い分けをするのが精々で、「何んでも治せる」水準には到底達しておりません。

医学は未だ、何故病気になるのか、と言う最も基本的な命題をも解明し得ないでいます。それ故、殆どどの場合、対症療法を行なわざるを得ませんが、この治療に付き物の副作用に絞って考察します。この際の最たるものは、対症

的には可成り優れた効果があるが、原病は治らないため投薬期間が長びく結果、病人は副作用に苦しみ、あまつさまで寿命まで縮めてしまう治療法すらあることです。これは薬剤が世に出る過程で治療効果と急性毒性は検討されますが、この段階では長期連用に伴う副作用は分らないため、犠牲者を出すに至るのです。

一例を示しますと、曾って腎炎を始め、リウマチや膠原病などの治療に使われたクロロキン剤で、副作用のため失明してしまった人がいます。この薬は、現在裁判で係争中ですが、私が医師になった昭和30年代、当時の腎臓病の大家権威と言われた人が、重篤な副作用のない治療剤として推奨していたことを思い出し、す。しかし、その後の研究で、治療上は殆ど無効、副作用は失明と言う最悪の結果で終りました。これらの事実も、治療薬の進

発行所

〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア中央診療所内

サナモア光線協会

年4回発行

会費 年500円

電話 東京(03)

793-5281

712-5322

現代医学の限界

—予防に優る治療はない—

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

ンターフェロンや、精などの、子宮、心臓、肝、脳などが生成され、つ異なる構造のものが生成され、各々が多様にしかつ重要な生理作用を持ち、既に一部臨床にも応用されていて、昨年度のノーベル医学、生理学賞を受賞したペロスタグランドインなどがあります。生理活性物質の治療効果や副

この治療法の原理は、生理活性物質がもつ機能を、そっくり疾病治療に利用出来る上、本来各個体が保有している物質で、副作用面も軽減し得るの点にありま。この生理活性物質には、白血球が作り、抗ウイルス作用と共に抗癌作用が期待されている。また、抗がん剤の副作用を軽減する作用も期待されています。

歩の道程では止む得ないことと、言ってしまうべきかもしれませんが、副作用のない薬はなく、起るのと治療手段のない場合も多いこと、から、特に経過の遷延する慢性疾患では、無理な治療をしないことが大切です。

生理活性物質の 治療への応用

生理活性物質とは、生体内で作られ、重要な生理作用を果す物質のことですが、これを治療目的に使用する方法が研究され、脚光を浴びています。

この治療法の原理は、生理活性物質がもつ機能を、そっくり疾病治療に利用出来る上、本来各個体が保有している物質で、副作用面も軽減し得るの点にありま。この生理活性物質には、白血球が作り、抗ウイルス作用と共に抗癌作用が期待されている。また、抗がん剤の副作用を軽減する作用も期待されています。

作用は研究途上にあり、評価は時機尚早ですが、治療に使う際には強力な薬理作用を期待して生理的の限度を超えた大量投与が行なわれる関係から、副作用は当然予測されるところです。既にインターフェロンの副作用については、アメリカで大量投与に発熱性があることが報告されていますし、フランスでは心筋梗塞を起す恐れがあるため使用中の処置がとられています。この副作用は追試確認されていますが、今後の報告に注目する必要があります。

予防に優る治療はない

医学の限界を打破する最善の手立ては、自然に帰る必要がありません。誰れもが、天気の良い日は屋外に出て、新鮮な空気を吸い、日光浴を楽しむ必要がありません。食事は旬(シュン)のものをバランスよく食べることが大切です。

多くの医学者およびその周辺の学者の努力にもかかわらず、健康と病気に関する諸問題は、なお人智を超えたところにあります。特に治療医学は、試行錯誤の繰り返しの域を脱し切れず、今から直ぐ始められる養生が大切です。その一つにサナモアを加えて下さい。毎日20分30分間、サナモアで光線浴を続けければ、予防医学の立場からも有益なことは言を俟ちません。

■薬の不足は病気の原因でないが
光線の不足は病気の原因になる



宇都宮義真撮影

「みづかがみ」



讃光譜



一、病気を診ずして

病人を診よ

現代医学は、「病氣」という抽象的概念にとらわれて、ややもすると「病人」という具体的事実を忘れ易い傾向があります。

病氣の原因は単に人体の「臓器の破損」や「組織の失調」のみではなく、その人の環境の総和によるものでありますから、胃腸病は胃腸のみの病氣でなく、心臓病は心臓のみの病氣でなく、眼病は眼のみの病氣でなく、蓄膿症は鼻のみの病氣でなく、すべて全身病であります。

そこで身体をバラバラに見る「生命機関説」を断然排撃して、「生物の全体性」を基礎とした「生物学的医学」を高唱する必要があるものであります。

二、症状

現代医学に於て、症状と称して抑制これとめてゐる発熱、咳嗽、疼痛、下痢、発疹等は、実は体内の有害物を排除するのでありますから、病氣の治療上

に必要な治癒反応と認むべきであつて、無闇に抑圧してはなりません。

病氣が治つて自然に症状の「無くなる」場合と、病氣に係なく無理に症状のみを「無くする」場合とを混同してはなりません。病名が全然分らぬような時でも、アスピリンを与え

真の治病健康法

宇都宮 義真

ば熱は下り痛みは和らぎますし、モヒを注射すれば痛みは完全に止まりますが、これ等は決して推奨すべき治療法ではありません。

三、「自分のためにのみ薬」

と、「人のためにのみ薬」

東京市立広尾病院院長、加用博士の「喘息根治への道」より借用しましょう。

「誰でも病氣にかかる、何はさて置き薬はないかと薬の探索にかかるが、千人が千人みなすること、だから医者の門を敲く患者の大多数は、医者から薬を貰うことが眼目であつて、もしも医者が薬をくれずに、薬以外の方法だけを教えて返すものなら、患者の過半は、非常な不満と心細さを感じ、金がかかっても、時間がかかってもよいから、薬をくれる医者を訪れることになるのである。

ところが、医者の身になってみると、来る患者の悉くに、決して確信のある薬のあるものでなく、患者の理智が高く、且つ開業医が薬価によつて生活するという古来の弊風のないもので、卒直に所信の通りにやっても、患者が満足し、生活も豊かになるものだったら、患者に与える薬の数が現今よりは遙かに減じ、医者の方を出る病人で、薬を携えないものが、随分夥しくなることであらう。」と、

これでは、高い薬は「自分の病氣を治すためにのみのか」、「病院経営の必要からのむのか」分らなくります。

四、真の治病健康法

人類あつて以来五十萬年、その間に驚くべき生存の適応性と低抗力とを養成し、偉大なる自然治癒能力を享有したる人間の治病の根本は、個有の治癒回復の機能を幫助達成せしむる事が最も合理的で、而もその全部といつてよいのであります。

われわれ人類は、光と共に生まれて光と共に生存して来たのでありますから、光を離れて眞の治病健康法はありません。室内にあるひと鉢の植木が将に枯死せんとするや、如何なる薬物も千金の栄養素もこれを阻止することは出来ぬが、僅か数十分間日光にさらせばこれを救うことを得るではありませんか。

光線療法は、もっとも普及しなければなりません。

「光と熱」昭和10・8・5発行
—— 眞の健康法 ——

「光と熱」昭和14・9・1発行
—— 病氣と薬 ——
より要約した。

(ク) ル病の原因については、奇しくも一九一九年に、ハルドシンスキーの光線欠乏説と、メランビーの栄養欠乏説とが、時を同じくして発表されたが、当時は異なる病因論の間の繋りは皆目不明で、なお研究の積み重ねを必要としていた。

類と違って、元来が夜行性で、直射日光のない環境に順応して、クル病に抵抗性を有するラットを、生物学の特性を考慮せず、被験動物として用いたため、クル病を作れなかったのであるが、逆説的には、メランビーの「クル病原因食」なるものの誤りを立証したことになる。因に、それまでの実験的クル病は、子犬で成功したのであって、ここにも環境に適應した自然界の精妙さがある。

研究を続けている内に、タラ肝油を加熱して、その中に含まれるビタミンAを壊すと、ビタミンA欠乏症(夜盲など)に対する治療効果を失うが、クル病に対する治療効果は残ることを発見する。一九二二年に、残存した脂溶性因子を「ビタミンD」と呼ぶことを提唱した。

(マ) ックコラムの報告は、食品から新しい栄養素を発見したとして称讃を博したのであるが、反面、クル病は光線の欠乏

(換) 言すれば、ハルドシンスキーやマックコラムらが、ビタミンDは主に光線浴で補給し、それが出来ない環境下では魚類が供給源になり、その他の食品では代用し得ない自然のルールを明確にしたのであるが、現代の栄養学は、食品にビタミンDを添加して補うか、ビタミン剤で補へば事足りるとして、先人の業績をないがしろにする傾向がある。例えば、アメリカでは牛乳に添加し、日本では米に添加したりしたのが、その例である。

(ソ) の結果、現在もおクル

比して考察した際に述べた様に、メランビーの栄養欠乏説には、実験の前提条件に誤りがあったが、実験的クル病をタラ肝油で治す治療経過には落ち度がなかったため、実験上の不備は認識されにくかったのである。ところで、メランビーの実験の追試をする過程で、タラ肝油から抗クル病効果を持つ脂溶性因子を分離し、これがビタミンAでないことを証明して、ビタミンDと命名し、クル病をビタミンD欠乏症に分類する上で決定的な役割を果たしたのが、アメリカの栄養学者でビタミン学の泰斗と言われた、エルマー・マックコラム(写真)である。

(ヤ) や脇道に

応用光線療法学 (16)

□ ビタミンDの作用 □

その 13



McCollum, Elmer Verner

(1879~1969)

医学博士
宇都宮 光明

(脂) 溶性のビタミンAと、水溶性のビタミンBとの分離に成功したことも知られるマックコラムは、メランビーの報告に注目し、ラットをメランビーの「クル病原因食」で飼育して実験的クル病の作成を試みたのである。マックコラムの実験は、常に太陽の下で生育する哺乳類や鳥

の沈着を妨げたためで、症状や病理所見が似ていても、自然のクル病とは全く異質な疾患である。従って、光線もタラ肝油も治療効果はなく、自明のことである。

が原因とする視点が弱まり、栄養欠乏説に力点が置かれるようになり、延いては今日まで影響を与えているのである。同

この問題には決着をつけた。この一事を以てしても、自然は完全無欠なことが分るのである。

次の共通点は、添加食品をとらないことである。即ち、菜食主義の子供とか、母乳栄養児とか、光線感受性の低い黒人の子供とか、魚を食べなくなつたエスキモーの子供とかである。いづれも、光線浴を心掛け、魚を食べる先祖の習慣を守つていけば、単にクル病を防ぐだけでなく、より一層の健康を手に入れることができることは言うまでもない。

マックコラムの実験は、常に太陽の下で生育する哺乳類や鳥

の、抗クル病作用を持つ脂溶性因子をビタミンAとした、メランビーの考えに疑問を抱き、研

時に正鵠を射る研究をしており、むしろ光線の重要性を強調しているのである。即ち、各種食品のビタミンD含有量を調べ、例えばバターやラードのような動物性脂肪にも、必要量のビタミンDはないことを明らかにし、太陽光線の乏しい環境では、魚類以外の食品では、クル病を「防

(ビ) タミンD欠乏症について言えば、文明が私たちの生活様式を一変させ、自然環境を壊さなければ無縁の病気であり、先祖伝来の生き方を大切にしたい方でも、魚を食べて長い冬を凌ぐことが出来たのである。

病報告例は散見されるのである。通常、潜伏的なビタミンD欠乏症であっても、必要量の約4分の1を摂取すれば、典型的なクル病は発病しないと大雑把に考えてよいのであるが、最近、アメリカ、イギリス、南米などから、典型例が報告されている。これら報告に共通なことは、足の彎曲、全身衰弱、運動機能の遅延、発育不全、低体重など、典型的な症状がありながら、初診時にはクル病と診断されていず、ここにも医師の認識の浅いことが示されている。

熱があっても掛け ても良いですか

冬は風邪を始め、兎角、熱の出る病気に罹り易い季節です。こんな時に光線を掛けると、熱の出ている病人を更に温めることになるので、却って悪くなるのではと心配する人がいます。でも、卵酒を飲んで蒲団を被って寝る”の”でも、熱は下がります。

熱が出る前兆として、自覚的には寒気がしたり、ふるえがきます。この状態から、身体中が火照ってくれば、大概熱発してきますが、これ迄は汗は出ません。そして、もし次にびっしょりと汗が出れば、熱は必ず下っていきます。そうです。熱を無理なく自然に下げるには、身体を温めて汗が出やすくすることが大切なのです。これで、先に述べた卵酒の効用も分ります。

さて、光線を使った場合を考えてみましょう。主に足裏、足の甲、ふくらはぎなど足に30分も掛けますと、身体の芯から温まり、発汗を促すので解熱するのです。

もし熱の原因が風邪と分って

いるようなら、副作用が心配な解熱剤に頼るより、光線で熱を下げる方が、ずっと自然で安全

妊娠中に掛けても 良いですか

妊娠中にレントゲン線や放射



光線110番

です。その上、ウィルスに対する抵抗力を増し、体内の毒素を中和するので、回復も早めます。

害の無いことは言う迄もありません。それよりも、妊娠中の光線浴は是非ともしてほしいものなのです。

一般的には、妊婦は栄養に気

サナモアを使用する切っ掛けは、知人に勧められたと言う方が殆んどですが、それぞれが自身の体験を基に話するため、例えば腰痛の治った人は腰痛で苦しんでいる人には自信を以って勧めますが、他の病気に使う段には、幾ら光線療法を参考にしても、なお多少とも不安を抱くことが間々あるようです。中でも比較的多く厄介なのは、常識に照らして掛けてはいけな初期で使う時には己むを得ない面もあると思います。これが、実際問題として、日常経験する病気で掛けて悪くなる気遣いは要りませんので、健康法と思って掛けて見て下さい。そうすれば、追い追い光線療法の応用範囲が分ってきます。同時に、自分自身の回復力の素晴らしさに気が付く筈です。これから述べることは、既に色々な病気に利用した経験を持つ人には釈迦に説法ですが、未経験な人も躊躇することなく使用して貰える様に、掛けても良いですか”と言う問合せが多い事項の二・三につき説明します。

を配り、定期的に血圧、尿検、貧血などを調べ、異常が無ければ良しとしますが、これだけではビタミンDが足りませんので、胎児の健全な発育のために必要なカルシウムの吸収が円滑に運びません。この事態を避けるため、驚くべきことに、妊婦の光線感受性は、非妊娠時の一・五

倍になることが分っています。光線浴は、この機序を確実に助けます。サナモアの愛用者の方には、この事実を常識の域まで高めて頂きたいと常々考えています。また妊娠合併症の予防や治療にも有効ですから、サナモアを積極的に利用して、丈夫な元氣な

が症状を訴えられないだけに難しい面も多いため、若いお母様方は掛りつけの医師を決めて健康管理をしていって下さい。

そして母乳栄養こそ理想的な成分分布を持つことが常識化し、母乳で育てる方も増えているようです。しかし本号の応用光線療法でも触れたように、母乳ですら、赤ちゃんが必要とするビタミンDを含んでいません。それ故、他のビタミン欠乏症の心配はありませんが、ビタミンDに限って欠乏する可能性がありますが、残念ながら、多くの医師はこの点に十分な認識

赤ちゃんと生んで下さい。

赤ちゃんに掛けても 良いですか

勿論構いません。それどころか、赤ちゃんの健全な発育に、光線浴は必ず役に立ちます。赤ちゃんの健康管理は、相手

こんな時 掛けても 良いですか?

を持っています。

このような訳ですから、特に日光浴のさせにくい冬には、サナモア光線浴をさせてあげて下さい。乳幼児は、寝ている時に集光器を使って、わずかに温かみを感じる距離まで離して掛けて下さい。

(次頁へつづく)

眼にかけても

よいですか

眼と光線との関係は、眼科医が矢鱈とサングラスの使用をすすめることもあってか、予想外に不安を持つ人が多いようです。でも心配するような影響は、眼を開いて長時間光線を凝視した時以外は有り得ません。ちょっと見るくらいのことは何んでもないし、特に黒目の日本人は、光線に比較的強い抵抗性を持っています。

眼と光線との関係で有名なのは、溶接工やスキーヤーなどに起き易い、紫外線結膜炎でしょう。別名、雪盲(雪眼炎)とも言います。本症は、結膜炎症状に加えて激痛を訴えることもあります。が、経過は一過性で、多くは数時間で緩解し、長くかかって一晩寝れば翌朝には治っているのが普通で、これ以上に及ぶことは極めて稀な、予後良好な疾患です。この他に、日蝕観測のように太陽を長時間見詰めた際に、光線が集中して網膜に火傷を起す、日蝕性網膜炎(太陽性網膜炎とも言う)がありますが、この病気にかかる、あ

る種の網膜疾患が治ってしまうことが明らかにされ、これが切っ掛けになって、眼科で広く使われているレーザー光線による治療法が生まれたのです。

ところで、光線療法の場合は、必ず眼を閉じて掛けて貰います。ですから、理論的にも眼鏡は不必要ですし、前述の病気も含めて、悪影響はあり得ません。そ

愛用者だより

☆元氣な毎日

熊谷市 高橋 英子

私は独身寮の暗い婦をして、いる56才の女性です。一年を通じて朝は5時に起きて30人の食事の仕度をするのですが、特に冬場の5時起きはとても大変です。まして、コンクリートの上での立ち仕事や水仕事は冷えきってしまい、いろいろと身体に不調をきたします。そんなある日、知人からサナモアのことを知り、毎日寝る前に照射を始めました。最初は半信半疑でしたが、いつの間にか身体の不調もなくなり、疲れなども感じなくなり

して、時として予想以上の効果があることが、治験例でも報告されています。

冷やせ"と言われて

いる病気に掛けても

良いですか

この質問については、本紙二

ました。不思議なことにカゼもひかなくなりました。

元気でいられるのは、サナモアのお蔭です。本当にありがとうございます。

☆腰の骨を折る

名古屋 井上 瑞穂

いつもサナモアを愛用させて頂いておりましたが、去年の春、90才になる姑が腰の骨を折り、八方手を尽しましたが、結局は手術による以外に方法はないとのことでした。しかし、何分にも高令な上、以前より寝たきり老人でしたから、接骨医も病院も「お気の毒ながら……」と為す術もありませんでした。

サナモアは「痛みがとれる」という事を頼りに、ひたすら

まず手初めに、眼が疲れた時にも掛けてみて下さい。きっと、すっきりするのが分ります。

二二号(S56・7・1発行)で、捻挫や火傷と光線療法、一温めることと冷やすことと題して説明しましたが、それ以降も問合せは相変わらずで、特に残念なことは、悪くなってから言っ

た。光線治療を続けることにしました。

歩けるようにならなくとも、あのひどい痛みさえとれたならとの頼みがついにかない、以前通りの寝たきり老人ながら再びごきげんよく休んでおります。

あのひどい痛みも、光線を照射すると、うめき声がやみ、おだやかな顔にもどってゆく様を目のあたりにする時、サナモア様々……とどんなにありがたかった事か。

娘が嫁にゆく時は、ぜひ持たせてやりたいと思ってい

☆一家の一員……

熊本県荒尾市 徳永和子

日毎に寒さが増して来るこ

来る人の多いことです。

この問題は、いずれ稿を改めて書きますが、火傷や捻挫の治療に光線は卓効がありますので、光線療法を参考にして受傷直後から掛けて下さい。

■後記

光線を使えないと勝手に決めないで、疑問の点は問合せて下さい。

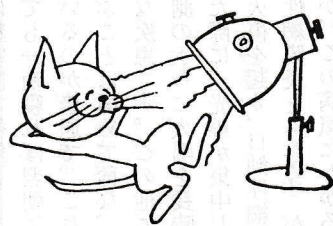
この前後に写したものです。すとサナモアがとてまたよりになります。

主人が三年前、いろいろな病気を患って困ります時、知人からサナモアを借りて照射しました。借りたのは一週間でしたが、主人の具合が大変良いので、さっそく自分の家でも一台購入、今では無くてはならないものになりました。

娘から孫まで、それこそ、いろいろな治療に活躍中で、正に家族の一員といっても過言ではありません。

これからも、未永く、大切に利用してゆきたいと思っています。





最近経験した

症例から

神戸市 ウエノ光線療法
上野 貞子

☆重症筋無力症

症例 18才 男性

症状 日頃は元気に運動部で活躍していた。ところが、風邪を引いて治療中に、突然呼吸困難に陥り、直ちに入院し、気管を切開して酸素吸入を行った。また、食物も飲み込めないため、鼻から管を入れて栄養補給をせざるを得なかった。

病院では、重症筋無力症と診断され、家族が付きっきりで看病しているが、二ヶ月しても改善しないため運動部の先生がサモアの治療をすすめ、院長の許可を得て、私が治療法を指導した。

療法経過

ADカーボンを組合せて、一日に二回の照射を指示した。掛け方については、身体が棒状で、自由に動けないため、足の方から足裏、膝、腹、

—治療例報告—

腰、背、後頭部(小脳)、眼の順で各5分照射、二回目は眼5分後頭部(第一集光器) 5・10分照射した。

治療を始めてから一週間目に、自力で少し呼吸が出来る様になった。また、頭を左右に動かしたり、両肩を上下に動かすことも、ある程度可能になり、現在希望をもって治療継続中である。(この症例は、現在も入院中ですが、この分だと三ヶ月もしたら助けることが出来るそうです。今後の経過については、改めて報告する予定です。)

☆白内障

症例 60才 男性

症状 白内障のため両眼とも失明同様で、テレビも見えず、外出時は家族が付き添い手を引いていた。

昨年11月に相談に来られた時には、見える様になるか保証することは出来ないが、可能性を信じて、光線療法をしてみる様にすすめた。

療法経過

Aカーボンを使用し、腹部、膝、足裏、腰、背各5分、後頭部(小脳)と眼部は第一集光器を使い朝晩各5・10分照射した。その結果、今年の四月、五月頃より、テレビも少しは見える様になり、九月には一人で外出出来るまで視力は回復した。(最近、一人で京都まで出かけ、家族は心配したそうです。)

☆水頭症

症例 三ヶ月 男児

症状 未熟児で生まれた。生後、頭が普通より大きく、発育も遅れ気味で、医師から頭に水が溜まっているので暫くしてから手術して水を取ると云われている。

生後三ヶ月の時に来所、最初若い両親は光線療法の説明に半信半疑のようであった。

療法経過

Aカーボンを使い、腹部(第一集光器)膝から足首、背から腰、後頭部(第一集光器)

大火傷の治療体験

春日市 前田光線治療所
前田 ミサ

前所長・故宇都宮 義真先生が、生前口癖のように、「火傷には光線療法が世界一だよ」とおっしゃっていたことが、今でも脳裏に焼きついています。そして図らずも、ちょっとした不注意が原因で四度の大火傷をしたのを、光線療法でほぼ完全に治しましたので経過の概要を報告します。

昭和57年5月16日に受傷、火傷の程度は、両手の指全部と肩胛骨の下の部分と足が水泡を作りましたが二度の火傷で、腰から臀部の上部にかけては三度から四度の火傷です。火傷をしてから三日間は、家族の献身的な協力、で、苦しい時は朝昼夜、時をかまわず楽になるまで、二台の治療器を使って、一台は手、一台は腰と言うようにして掛けました。このため一日十五時間位、掛けた日もあり

と顔面(寝てる時、第一集光器)に各5分照射。

治療開始後一ヶ月で小児病院で再度診察を受けた処、頭の大きさが前回より大分小さくなっており、手術は見合せている。

(医師は、こんな筈はないと計り直していたそうです。発育も盛んになり、動作も活発になったと喜んでお礼に来られました。)

神戸市中央区下山手通三五一 TEL〇七八三三二一三五八

ます。

二度の火傷の部分は、日に日に楽になり、十日から二十日になつた三度から四度の部分には、四日目に、光線を掛けて後に油薬やアロエを塗って上から覆っておいたガーゼに黒こげの部分

がくっついて剥れてからの苦しみ、が、むしろ大変でした。炭化した皮膚が剥れた部分は、深さ一・五cm前後で、ザクロの実がぎゅっしり並んだような状態です。そのため、常にうつぶせの姿勢で、両横から楽になるまで掛けました。一番つらい盛りは、一回に三時間から五時間掛けただけでもありました。

十病日頃 家族があまりに疲れたこともあって、火傷の薬を薬局で購入しました。これが結果的には大失敗で、薬を使い始めて四日目には痛み出し、悪化させてしまったのです。多分、化膿させたのでしょうが、その後は、迷わず光線一本で治療する決心をしました。写真1は、

この時に写したものです。

火傷をしてから、一ヶ月を過ぎる頃には、傷の方は大部楽になり、自分で無理のない姿勢を考えて照射できるようになりましたが、まだ分泌物は可成りの量でした。この時期に写したのが、写真2です。

五十病日頃には、腰の横の傷は綺麗に治りましたので、うつぶせから横向きになれるようになり、四度の火傷の部分もめきめきと治り、だんだんと元の肌色も増加してきました。残りは五・六ヶ所に、米粒大の傷が散在していました。

写真3は九五病日で写したものです。傷は治りましたが、火傷の傷跡の痒みに悩まされた頃です。痒みのため、夜中に何回か目が覚め、その都度薬になるまで治療したため、慢性的睡眠不足になり、やや精神的にも不安定な心情になりました。このため、光線を愛用されている内科・小児科の先生に、処方していただいたりもしました。

日が経つにつれ、痒みも薄らいできました。今では、昼間の痒みはなくなり、夜も痒みで目が覚めることは殆どなくなりました。先生も「本当にすばらしい治り方ですね、ケロイドも白斑も残さないのは、全く光線の力ですね」と申されています。

写真4は半年後のものです。四分の一は元の肌の色になりました。痒みも完全になくなる日(次頁へつづく)

▲十五病日



を、落ちていた気持で待てるようになりまし。

な。お使用したカーボンは、その時の状態により、B、B、A、A、A、D、B、Dです。

福岡県春日市大字須玖一六四
TEL〇九二一五八二〇三九

多発性硬化症と 光線療法

川崎市 東京光線治療院
海渡一二三

昭和55年1月1日発行の「健康と光線」に「光線療法が奏効したと思われる多発性硬化症の一例」を報告したが、それ以後、二症例を追加経験し、これら三例で光線療法は明らかに治療効果を示したので、ここに改めて報告する。

光線療法の照射部位および照射時間は三例とも、肛門、腰、腹、足裏、後頭部、左右側腹部などを主にして、症状により適宜他部位も加えながら、一ヶ所十〜十五分、総計六十分から八

▲二十九病日



十分行った。なおカーボンは、A、B、A、C、A、Aなど交互に使用した。

☆症例1 36才 男性

(前報告例)

起始経過 昭和53年2月に、食欲不振、めまい、手足のふるえ、歩行、言語、排尿障害を主訴に某大学病院に入院し、多発性硬化症と診断された。その後、も継続入院で投薬を受けていたが、病状が好転しないため、同年4月に病院の許可を得て来院した。

症状経過 来院時、満月様顔貌、全身に丘疹状の発疹があり、薬の副作用と考えられた。また、病院初診時の症状に加えて、腰部、下肢に筋肉痛を認めた。

光線療法を始めて最初に見られた著しい変化は、排尿が容易になったことで、このため許可を得て病院内にもサナモアを持ち込み治療した結果、2〜3ヶ月後には、自発尿が可能になっ

▲九十五病日



た。同時に病院からの投薬が中止されたので、満月様顔貌、発疹は消失し、治療開始3〜4ヶ月で主訴は軽快し、6ヶ月後には殆んど無症状となった。それ故、通院治療は8ヶ月で中止したが、再発防止のために自宅治療は続けている。

本例は発病から五年を経過し、現在では41才になるが、再発することなく、毎日を明るく暮している。

☆症例2 39才 男性

起始経過 昭和54年1月に、めまい、手足のふるえ、腰や足が強張り歩行が不自由、排尿が思うにまかせない、筋肉痛などの症状で、某市立大学病院を受診し、精密検査の結果、多発性硬化症と診断された。

当院へは、同年の二月二日、夫人が同伴して来られた。

症状経過 早速、光線療法を始めたところ、四月まで三ヶ月の治療で、筋肉痛は消失して歩

▲六カ月



行が容易になり、排尿障害も改善して、症状は著しく軽快した。それ故、このまま完全寛解に入るかと思われたが、五月十日の来院時に、再発を認めた。その後、その後はこれまで以上に厳格に、自宅での治療も含めて、光線治療を行った結果、七月末には寛解に導入出来たのである。

現在も再発防止のため光線療法を続けている点は症例1と同じで、夫人からの連絡によれば、異常を訴えることなく、安心して仕事に従事しているとのことである。

☆症例3 48才 男性

起始経過 昭和55年5月、胸がしめつけられる感じ、膝のふるえ、足首から下のシビレ感、歩行困難などのため、某大学病院に入院検査の結果、多発性硬化症と診断され、引き続き治療を受けたが一向に良くならず、10月には足のシビレは益々悪化していた。

病状改善しないまま、昭和56年2月に一時退院したが、胸部から下の痛覚が鈍くなったり、耳鳴りが酷く、同年6月に再入院した。しかし、経過ははかばかしくなく、昭和57年2月に退院して、今後の生計のことを考えている時に、知人に光線療法を紹介され、昭和57年3月に来院された。

病状経過 直ちに光線療法を始めたところ、六月頃から以前より歩行が楽になつてきたので、七月から職場に復帰した。同年八月の来院時には、仕事の疲れもなく働けるが、まだ、耳鳴り、皮膚疹もあり、完治を目指して鋭意治療中である。

なお、本症例は月一回の通院と自宅治療で経過観察中であるが、現在は元気に仕事をしている。

考案ならびに結語

多発性硬化症が光線に患まれた地方には稀で、熱帯への転地療養が有効なこととは、以前から指摘されている通りである。にも拘らず、本症患者は歩行障害を伴い易いことと、有力な薬物が少ないため、むしろ入院が長くなることから、むしろ光線浴の機会が奪われているのが実情であろう。

ここに極めて難治な疾患として知られる、多発性硬化症の三症例の治療体験を報告したが、光線療法が本症患者に一筋の光明でも与えることを願って止まない。

川崎市中原区丸子通二一七〇九
TEL〇四四一七二二一五〇六七

ビタミン

大量療法の問題点

ビタミンDは必要量を食事で補うことが難かしいため、本号の応用光線療法に記載したように、現在もビタミンD欠乏症があるのに対し、バランスのとれた食事である限り必要量は含まれるため、欠乏症のあり得ないビタミンD以外で、ビタミンD大量療法が話題になっていました。皆様の記憶にも新しい様に、ついこの間までビタミンBの大量療法が持てはやされていましたが、これがやや下火になったら、次は、アメリカからビタミンCやビタミンEの大量療法が輸入され流行り始めました。

元来、ビタミンは微量栄養素と呼ばれることから分るように、ビタミン欠乏症の観点からみれば、大量療法の必要性は全くありません。その上、自然の摂理は、ビタミンD以外のビタミンは、地上の食品から必要量を摂取できるようにできています。

これに対し、大量療法を推進している人々は、本来のビタミン作用にない特別な効果を求めて、使用量をどんどんエスカレートさせた結果、今や天然食品から摂取することは不可能な量になっていきます。具体的に、大量療法の使用量を天然食品の当該ビタミン含有量で、大雑把に換算してみましよう。

ビタミンC大量療法で、創始者のポーリング博士が推奨している量を、ビタミンC含有量の多いレモンで換算すると、毎日四〇〇ケ食べる必要があります。ビタミンE大量療法の場合には、これを豊富に含む小麦胚芽を、毎日2〜3 kg摂らなければなりません。

このことは、一般的な意味でのビタミン摂取とは言い難く、従って、ビタミン剤は無害と云う先入観も、再検討することが必要になります。勿論、必要量を自然な形で摂る分においては、無害なことに疑義はありませんが、ビタミン大量療法の使用量は、従来のビタミン学の範囲は遥かに越えていて、人類にとって未だ未知な薬物療法の範疇に属する問題として捉える必要があると考えるからです。

ビタミン大量療法は、栄養学の分野を離れ、薬剤効果を目的とした治療法です。それ故、効果の真否は素より、副作用についての研究も必要です。然るに現状は、飲めば飲む程効果があると言う反面、副作用は普通量服用時の知識で間に合わせようという安直さが気になります。

一般的に、水溶性ビタミン(BやC)は速やかに排泄されるため、副作用は少ないと言われますが、ビタミンC大量療法の副作用として、電解質の喪失(カルシウム等)、尿路結石などが報告されています。他方、脂溶性ビタミン(AやDやE)は、体内に蓄積される関係で副作用

を伴い易く、既にAとDではよく知られています。ビタミンEについては、比較的副作用がないとされてきましたが、破天荒な大量投与となると、副作用なしと言いつけるかは疑問です。要は、信じて大量療法を行っている人達を、長期連続投与の副作用研究の実験動物の代用にしたいのではないのです。このためにも、特に副作用については、早急に検討し直す必要があります。

私達の先祖には、毎日レモン四〇〇ケに小麦胚芽2 kgも食べた人は居りません。むしろ食料事情が悪いためにあったビタミン欠乏症を克服することが大切だったのです。これに対し、日光には親しんでいたため、ビタミンD欠乏症はなかった筈です。これが今では逆になっています。現在の日本は、潤沢な食料に加え、栄養学的な意味でのビタミンの知識が常識化したため、食品から摂るビタミンについては、余程の偏食がない限り欠乏症はありません。でも、日光ビタミンのビタミンDは、日光を浴びる機会が減ったため、多くの人々で不足しています。

健康を願うなら、足らざるを補う意味でも、ビタミンDに関心を持つべきではないでしょうか。

新年は一月五日(水)
から営業を開始します。



サナモア光線協会

趣意書

光線療法が、人々の健康に寄与し得ることは疑いないにも拘らず、現状の医療体系は薬物手術に偏し、光線の効果についての一般の認識はなお不十分と言わざるを得ません。

このため、人々の健康を願うと共に光線療法について、啓蒙普及活動を行う目的で、サナモア中央診療所内に、サナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、会員相互の懇親、体験発表意見交換を通して、光線療法についての理解を深めるため「健康と光線」を季刊にて発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八一
七二一-五三三二